

奥谷浩一教授退職記念号によせて

札幌学院大学人文学部長

岡崎 清

2015年3月末日をもって、長年にわたり本学の研究・教育の発展にご尽力されました奥谷浩一先生が定年を迎えられ、本学をご退職されました。ご退職に際し、奥谷浩一教授には長年の御功績と研究を称え、札幌学院大学名誉教授の称号が授与されました。

奥谷浩一先生は北海道大学文学部を卒業された後、北海道大学大学院文学研究科修士課程、同博士課程で研究を継続され、1976年9月博士課程満期退学、同年10月、本学の前身である札幌商科大学商学部専任講師として着任されました。77年4月着任の予定が本学の都合により、半年早まったと伺っております。77年4月は本学人文学部が開設されました。先生は人文学部人間科学科の設立に重要な教員のお一人として半年前に着任されたこととなります。着任後半年を経て助教授、88年4月には人文学部教授に就任されました。学内でのお仕事としては89年4月から2年間、人間科学科の学科長として、また97年4月からも再度1年間お務めになられました。そして99年からは選挙によって札幌学院大学理事に就任されました。理事職の間、大通西6丁目の本学社会連携センター（当時はアクティブセンター）開設にご尽力され、社会人に向けた講座を次々と開講、また自ら講座を持たれるなど率先垂範して本学の社会貢献事業の一翼を担われました。理事を退かれてからは2007年4月から2010年3月までの3年間、人文学部長に就任され学部のためにご尽力されました。さらに2010年4月から1期3年ばかり、本学学長として教学を代表するお仕事を精力的にこなされました。

奥谷浩一先生のご研究に目を転じますと、先生は博覧強記といえるほどの数多のご著書、論文をものにされました。近現代ドイツ哲学、環境思想、生命倫理学、日本思想史をご専門とし、とりわけ近年は環境思想や生命倫理にご関心を向けられました。私事になりますが、私が在外研究で米国に滞在した際、先生から「米国の国立公園を是非見ておきたい」と連絡をいただき、ヨセミテをはじめとするカリフォルニア州の国立公園、さらには東海岸のウォールデン湖畔まで先生をご案内した思い出が私の心に深く刻まれております。ウォールデン湖畔は米国のナチュラリスト、ソローが住んだ場所でありました。ヨーロッパ（さらにはアジア）を中心とした先生の行動範囲が米国にまで及んだのは、先生が日頃講義で話しておられた一部として米国の環境思想のもとを先生の目で実際に見てみたいからとのことでした。先生は、机上の学問だけにとどまらず行動する知性の巨人でした。

人文学部は先生のご尽力に改めて敬意と感謝の念を表し、ここに記念号を編み、奥谷浩一名誉教授に捧げることといたします。